

ウムチョ ムゥイーザ通信

No. 4 2

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

現地 NGO「ADESOC」報告

2015年11月8日

ウムチョムゥイーザ学園 フランソワーズ校長より

みなさんこんにちは

2015年8月1日から私はADESOCの役員会において、校長に任命されました。着任から3か月が過ぎ今現在おかげさまで順調に進んでいるように感じます。

ルワンダの教育を考える会を支えて下さっている皆様に心から感謝申し上げます。皆様の協力がなければここまで進むことは出来ませんでした。

青年海外協力隊として1989年にルワンダに来てくださった穴戸なつ美さんと私の妹マリールイズの出会いのおかげで、1993年マリールイズが日本に渡る機会を与えて下さったことに感謝します。今では、日本とルワンダのかけ橋となり、日本にルワンダの状況を理解していただき、そしてルワンダに日本の状況をただしく伝えて、遠く離れた両国の異文化交流の助けになってもらっています。

現在、ウムチョムゥイーザ学園を運営できるのは、日本の皆様の継続したご支援のおかげです。日本でおひとりお一人の頑張っていたいただいた気持ちを受けて、現地にいる私たちも頑張ってきたおかげでこのような事業を成し遂げることが出来ました。ルワンダで毎年子どもを受入れ教育しそして中学校へ送り出し続けることが出来ているのはキセキのような出来事だと思います。



マリールイズとチャールズ

夫チャールズ前校長・ADESOC理事長が今まで頑張ってきたことにも敬意を払いしたいと思います。1991年6月にウムチョムゥイーザ学園の母体ADESOC(社会・文化・経済発展をめざす協会)を発足させ、1993年にギセニで中学校セントパウロを設立しましたが、1994年の悲慘な内戦によってすぐに建物が壊されてしまいました。そこで夢が途絶えましたがその後、日本でルワンダの教育を考える会の発足により、2001年9月キガリにて幼稚園小学校を開校することが出来ました。

このような願いを引継ぎ、私がこのウムチョムゥイーザ学園の子ども達の教育目標とするのは、まず第一に健康で成長することそして他者を思いやり賢く気がつく清潔感のある明日へのリーダーに育ててほしいと願っています。なぜなら良きリーダーになるには礼儀が不可欠だからです。恥を知る人間・物を大切に人・喧嘩は話し合いで解決できる人、一言でいえば隣人を愛し人類愛を持った子ども達に育ててほしいと思っています。

私自身いろいろ学ばなければならないことがたくさんあります。これからも日本の皆様のご支援を励みに子ども達の未来をみつめ、現地スタッフみんなで力を合わせれば必ず成し遂げられると信じております。

日本とルワンダの人々の交流が息の長い交流でありますようにと心から願っています。



遠足でハイポーズ

ウムチヨムィーザ学園の会計報告 2015年度2学期(5月1日～7月31日)

学費の納入状況の報告

*2015/7/31現在時価換算による

納入状況	幼稚園			小学校						合計	金額
	年少	年中	年長	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
100%	15	10	10	15	25	21	18	20	15	149	1,774,830
その他	0	5	6	8	17	5	5	8	2	56	349,820
0%	7	7	9	13	12	12	10	4	5	79	0
合計	22	22	25	36	54	38	33	32	22	284	2,124,650
予算額											3,383,008
不足金額(日本からの支援額)											1,258,358

(1人あたり=70,000ルワンダフランを約11,912円に換算)

完納が前学期153名から149名へ！0%が69名から79名！支援が必要



2015年5月1日～7月31日会計報告

〔収入〕

〔支出〕

単位:円

項目	金額	項目	金額
学費	2,124,650	給料・手当	1,642,680
入学登録料	9,699	社会保険料	115,135
学校保険掛金	596	年金負担料	233,500
パソコン教室収入	62,960	職員食事代補助	141,816
ピアノリース収入	24,504	光熱費	37,974
ユニホーム作成販売	24,419	通信費	19,110
ユニホーム作成室賃貸	0	印刷費	48,545
多目的室賃貸収入	85,083	旅費交通費	89,065
バス運行収入	0	会議・研修費	62,880
水販売収入	0	施設維持費	110,531
アンテナリース等収入	424,563	外部監査料	46,455
考える会からの支援	349,180	医療保険料	151,120
個人寄付	63,582	緊急医療費	13,000
補助金	0	固定資産税	59,830
繰越金	2,313,482	備品	0
個人からの返済	2,552	建設/リフォーム	300,717
		慶弔/交際費	191,989
		銀行手数料	9,339
		制服等消耗品	24,674
合計	5,485,270	合計	3,298,360

残金

2,186,910

マリールイズは八月四日から九月十三日(学校全般の運営・給食プロジェクト委員会・健康診断プロジェクトの充実・ピースコンサートの開催)のために、ルワンダへ渡航していました。



てるちゃん日記

ルワンダでは「Izuba」(ルワンダ語で「太陽」)と呼ばれている照子さん
(当会理事斎藤照子 2012年8月28日日本を出発し以後ルワンダ在住)の近況をお知らせします。一緒にルワンダで生活している気分を味わってください。



皆さん、こんにちは！お元気ですか？

速いものですねー。

2012年8月30日ルワンダへ移住してから、満3年が過ぎました。

この間、つつがなく元気いっぱい過ごす事ができた事を、心から感謝しております。真っ黒に日焼けした私の顔を見て、「イズーバもルワンダ人になったねー」と喜んで下さる方に、「ムラコゼ チャーネ＝ ありがとうございます」と笑顔で答えております。

さて今回、2学期でチャールズ校長が退任して、3学期から、フランソワーズ校長が誕生しました。新校長からは、「全力で学校運営に取り組む事を約束します」と、力強い言葉を頂きました。女性校長として、細やかな気配りもあって、今まで滞りがちだった教師会、親の会、給食委員会など、積極的に実施し、校内や保護者との意思の疎通を計っております。

学校誕生以来、ずっと校長として学校の基礎を築いて下さった前校長に感謝すると共に、校内に新しい風を起こし、地域社会に良き風を送り、より良い学校を目指し、新校長をリーダーとして、心をつにして前進する事を願うばかりです。フランソワーズ校長は、必ずこの役割を果たして下さると信じております。

今年の夏は、8月5日キガリへ着いたルイズさんと共に、9月12日帰国の日まで、休みなく種々の活動に励みました。その幕開けは、8月15日の「ピースコンサート」でした。ルワンダ初のルイズさんの講演やマニーマーチンとケショバンドの演奏、広島市「はぐくみの里」の皆さんと当校の生徒達とのスカイプトークなど、盛りだくさんの内容で、圧巻は楽しさと歓びを全身で表す子ども達とマーチンとの歌とダンスのセッションでした。ホール全体が、参加者全員が発する楽しいエネルギーで満たされました。



その後は、当校訪問の日本からのお客さんが沢山あって、多い日には3組のお客様をお迎えし、とても賑やかでした。どの方も学校のオープンな雰囲気、子ども達の人懐っこい愛らしさ、熱心に教えている先生達にふれ、好印象を持って下さいました。これは、とても嬉しい事です。

まだまだ解決しなければならない課題は沢山ありますが、給食やルワンダ初の健康診断、コンピューター授業も幼稚園を含めて、全学年でスタートするなど、念願の課題が一つ一つ歩み始めました。これまで、飽きずあきらめず地道に応援して下さいった日本全国の皆さんに、学校に携わる全ての方達を代表して、心から御礼申しあげます。



雨季に入って、校庭の芝生や草花、木々の葉っぱが、生き生きとして来ました。

学校は素晴らしいロケーションに恵まれ、美しい空と学校をとりまく風景を見ていると心が洗われます。そして、午前の30分間の休み時間に、広い敷地で遊びに熱中する子ども達の生き生きとした姿を見ていると、歓びと感謝に包まれて、涙がこぼれます。

さあ、今日も明日もまた明日も、何があっても

「明るく、楽しく、おおらかに」生きるぞー……………



2015.10.2

それでは、また。お元気で…… IZUBA照子

ルワンダ滞在報告 2015 年 夏

8/13 から 9/12 の間、マリールイズさんに同行し、ルワンダに滞在させていただきました。今回は、一部ではありますが、滞在のご報告をさせていただくことになりました。本滞在では、マリールイズさんのご家族の方やウムチョムイーザ学園の先生方に大変お世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。

(文責 品田 智之)

ピース・コンサート



会場には広島の小学生の平和・
広島についての絵画が展示された

8 月 15 日にウムチョムイーザ学園でのルワンダ、広島、長崎を通じて平和を祈るピース・コンサートに参加しました。広島の小学生の絵画や授産施設とのスカイプ・ミーティングなど、広島出身の私と縁のある企画も数多くありました。

特に広島の写真展では、原爆投下後の闇市の写真と現在の 100 万都市となった広島市の写真とを比較して、来賓の役人の方へ広島復興の話をお伝えすることができました。広島市中心部の「原爆スラム」が広がっていた地域に、スラムの住民を吸収するための市営住宅を造った、という話です。

復興の恩恵が貧しい人たちにも行き届くように……という事例でもある広島市の取り組みを、これからのルワンダの復興を担う子どもたちを育てる教育関係の役人の方に熱心に耳を傾けていただけたことは、大変貴重な機会であったと思います。

アクティブ・ラーニングを伝える

8 月 17 日から 9 月 11 日までウムチョムイーザ学園でボランティアをさせていただきました。ルワンダの教育を考える会の、日本のアクティブ・ラーニング（ここでは双方向式の授業）を伝えるという事業があり、本ボランティアはその一貫として双方向式の授業を実践し、先生方と意見交換をするということを目指していました。東大で教職課程を修了し、5 年間の塾講師の経験を生かせるミッションということで、大変光栄に思い挑戦させていただきました。

2 週間の授業観察と先生方との情報交換の中で、考える会が想定していた以上に双方向式の授業の形を実践していることを確認した一方で、形が先行し、授業中の生徒の学びが少ないことに気づきました。

これを踏まえ、子どもが気づき・学べるような分数の授業を計画し、私が実践した授業ではグループ学習を導入し、各グループで手と頭を動かして考えさせました。

この授業は全先生に観察していただき、授業後には情報交換も行いました。活発に意見が交わされ、その意見は考える会の方にも伝わっております。今後、考える会のプロジェクトを進めるにあたって有益な第 1 歩になれば幸いです。



分数の概念を理解するための道具
を各グループに与え、考えさせた

ホームステイ



ホストファミリーと
最終日の写真

8 月 13 日から 9 月 12 日までのルワンダ滞在中には、マリールイズさんの妹さんである、エジェニさんのお宅でホームステイをさせていただきました。エジェニさんのお料理は非常に美味しく、また健康的でルワンダ滞在中おなかを下したことは 1 度もありませんでした!!（こうして日本で原稿を打っている本日はおなかと格闘しています）

写真のちびっ子くんをはじめ 3 兄弟（長男・次男は学園の児童）に、学園に通うために居候をする 6 年生の女の子、さらにはボーイさん、もちろんホストファザーに、マリールイズさんのお母様までいらっしゃる大家族を経験させていただきました。毎日のようにお客さんがいらっしゃり、長男の誕生日には友達やら先生やらが集まってホームパーティを開くなど、日本では経験できない、大家族であり、地域の絆を感じさせられる滞在でした。



22年ぶりのルワンダ



理事 穴戸なつ美



8月4日から13日までルイズさんと二人でルワンダに行ってきました。24年前に青年海外協力隊で行き、22年前に戻って以来のルワンダでした。私にとって、第2のふるさととなったルワンダに久々の里帰りです。初めて、カタルのドーハで乗り換えていきました。ルワンダに滞在したのは、5日～12日までです。空港に着くと、たくさんのウムチョムイーザ学園の先生方や、ルイズさんの親戚の方が出迎えにきてくださってました。念願のルワンダで照子さんに会うという目標も達成できました。久しぶりにルイズさんの家に泊めてもらったり、ルワンダの家庭料理を味わったり、収穫祭に参加したり、昔、自分が住んでいた家や職場を見に行ったり、何の計画も立てずにいったのですが、思いのほか充実した日々を過ごせました。

そして、なんといっても行きたかったウムチョムイーザ学園にようやく行くことができました。校舎を案内してもらいながら、「あ～、これが最初にできた教室なんだなあ」などと、今までの流れをあらためて思い出しながら、感慨にひたりました。ただ、ひとつ残念だったのは、夏休み中で、一部の子ども達にしか会えなかったことです。まあこれは、もう一度来なさいという神様からのお告げだと思ふことにして、次回を計画しようと思います。

11時間に及ぶルワンダの結婚式を体験したり、昔はなかったジェノサイドメモリアルに行ったり、博覧会に行ったり、なつかしい再会があったり、とても一週間しかいなかったとは思えないほどのたくさんの思い出ができました。

そして、22年が過ぎ、いつ音信不通になってもおかしくないほど遠いアフリカのルワンダとこんなに長い間つながり続け、行けば、待っていてくれる人達がたくさんいるということが、私のひとつの財産だなあと感じた旅でした。



NPO法人 ルワンダの教育を考える会 PRESENTS!! ルワンダ DAY in ふくしま

今年の「ルワンダDAY in ふくしま」はJICA様、福島大学様と共催及び様々な団体様より助成金・補助金等をいただき開催することが出来ました。

2日間とも天候に恵まれ、延べ400人の方が参加していただき、成功裏に終了することが出来ました。今回もスタッフの方々が状況を瞬時に理解してパワーと笑顔で支えていただいたおかげと感謝しております。

二本松市平石仮設住宅（浪江町）



日時 2015年7月19日（日）10:00～16:00

参加者 仮設住宅避難者 ルワンダ留学生 高校生 大学生 JICA訓練生 一般参加者

内容 ○仮設住宅で被災者支援と異文化交流会

留学生を迎え、日本の伝統文化である浴衣の着付け、流しそうめん、スイカ割りを行い、留学生にとって初めての浴衣はなかなか好評でした。

福島大学書道研究会による書道パフォーマンスは、避難者の皆さんを応援する力強いメッセージとなりました。

ルワンダ留学生は自国紹介とダンスパフォーマンスを披露、そのリズム感は素晴らしく会場は一体感で盛り上がりしました。



乗り越えた先に光がある、友を己を信じいざ進め

福島県教育会館

日時 2015年7月20日（月 祝）10:00～16:00

参加者 ルワンダ留学生 仮設住宅避難者 高校生 大学生
JICA訓練生 一般参加者

内容

○「ルワンダの教育を考える会」の活動報告

理事長の永遠璃・マリールイズがこの一年間の活動についてルワンダ・ウムチョムイーザ学園の教育支援、及び給食、健康診断のプロジェクト、仮設の避難者支援活動など諸事業を報告し、教育と命の大切さ、平和の重要性を柱に今後も活動が続けることを訴えました。

○映像と音楽のライブ「地球のステージ」公演

国際医療活動に取り組む精神科医の桑山紀彦さんを招き、自らが行ってきた被災地、紛争地での活動、青年海外協力隊のアフリカの活動、東日本大震災の子ども達の心のケア活動を映像と音楽で紹介しました。



○パネルディスカッション

パネリスト：桑山紀彦さん、高校生、福大生
留学生、JICA職員、マリールイズ

《テーマ：ルワンダとふくしまのキセキ》



前日の仮設住宅での交流と「地球のステージ」を踏まえ、留学生、福島若者、JICA職員が、海外での桑山さんやJICA隊員の活動から、国際協力の意義について語り合いました。また福島とルワンダで、それぞれの復興の取り組みとこれからの展望について報告とパネル討論を行いました。

毎月開催中

ルワンダカフェ@二本松応急仮設住宅

故郷を追われ、家に戻れない人たちの気持ちは体験者でないといえるものではありません。仮設住宅には今も善意の人たちの訪問がありますが、当会のマリールイズさんの訪れを、特別に心待ちにしている人が多いのはそれが大きいようです。20年前に起きた不幸な出来事を乗り越えてルワンダの今があるということは、東日本大震災による原発事故や津波から避難してきた仮設住宅の人々の希望の光にもなります。

そしてもうひとつ。ルワンダカフェの特徴は、「世界に開かれた窓」とであるという



ことです。仮設住宅というのは、ともすれば閉じられた場になりがちです。ルワンダのコーヒーや紅茶を飲み、ルワンダの材料を使ったお菓子を食べ、ルワンダ料理を食べたり作ったりして遠く離れたアフリカの生活に関心を持つことは、心の開放にもつながります。そういう意味でルワンダカフェは、ほかのボランティアグループによる訪問とは異なった特徴があると言えます。

そうは言っても、毎月の訪問でルワンダの話ばかりしているわけではあ

りません。みなさんで一緒に相馬地方の民謡を唄ったり踊ったりするなど、仮設暮らしで陥りがちな生活不活発病を防ぐためにも、ともかく笑ったり、大きな声を出したりする機会を増やすようにしています。

また、ルイズさんとのつながりで、全国各地から多彩な方々の訪問もあります。こ

のことは被災地と県外をつなぎ、被災者への理解を広める上にも重要な役割を果たしています。

以上のような点で、ルワンダカフェ@二本松仮設住宅は、ルワンダの教育を考える会の本来の活動と広義な意味で繋がっています。しかしながら、ウムチョムイーザ学園に使うべき貴重な資金は、できる限りここでは使うべきではないと考えています。そこで、共同募金のボランティアサポート助成金を申請して、活動資金を得ています。

この援助を得ることで、様々な特別企画も立ち上げています。たとえば6月にはパズデーと称して毎月のカフェには参加が少ない男性に主眼を置いたバーベキュー、年末には二本松地域の方々との絆まつり、また10月には講師の田辺鶴瑛さんをお招きしての楽しい介護講談、さらにこの後も、アフリカンドラムを使ったコンサートなどを予定しています。

ルワンダカフェにはコーヒーやお茶をサービスしたり歌を歌ったりする人のほか、写真を撮ったり、クッキーを焼いて送ってくれたり、色々な会員のボランティアの協力があります。

そしてまた、仮設住宅のみなさんもルワンダの子どもたちに関心を寄せ、学園の子どもたち一人ひとりのために、キャンディーを入れた手作りの折り紙バッグをたくさん作ってプレゼントして下さいました。この活動が一方的に「援助」するだけに留まらず、本当の意味で交流になっているところが、いちばん嬉しいところです。

2015.11.20

(旗と踊りの写真:管野千代子/文:本田 敬子)



『ルワンダコーヒー』新パッケージのご紹介&価格改定のお知らせ



ルワンダから直輸入して販売しております「ルワンダコーヒー」は、お陰様をもちまして、大変ご好評をいただいております。

しかしながら近年、原材料である生豆の市場価格が高騰を続けており、価格を据え置いてまいりましたが、為替レートの円安基調に伴い、従来の価格を維持することが困難な状況となっております。

つきましては、手持ちの在庫がなくなり次第、最高品質の豆にグレードアップした、新パッケージ『ルワンダコーヒー』200g 価格 1400円に切替させていただきます。

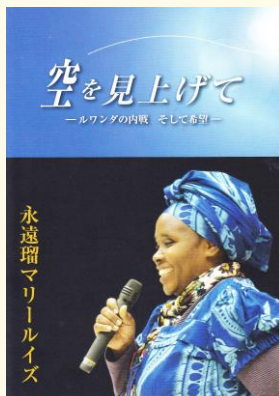
これからも品質の維持とサービスに努めていきたいと思っております。柔らかみのある柑橘系の酸味と甘味、クリーミーなコクが特徴のルワンダコーヒーのご愛顧をよろしくお願い申し上げます。



【注文方法】

お名前、お届け先、商品名、数量を記載し、メール (info@rwanda-npo.org) 又は FAX (024-533-8289) でご注文いただければ4~5日以内に宅配便にてお届けいたします。 6000円以上のご注文で送料無料になります。

『空を見上げて』2015.7 第二版発行のお知らせ



永遠瑠マリールイズ自著「空を見上げて」(2015年改訂版)を発行しました。自らの生い立ちから福島で生活するまで、そして今、何を思っているのか。

ひとりでも多くの方にお読みいただければ幸いです。

【注文方法】

お名前、お届け先、数量を記載し、メール (info@rwanda-npo.org) 又は FAX (024-533-8289) でご注文いただければ4~5日以内に郵便にてお届けいたします。

1冊500円+送手数料160円(送手数料は冊数によって変わりますので、ご注文時にお知らせいたします。)

ルワンダ写真展

2015年12月26日~12月28日 1月4日~1月8日 (予定)

福島市駅西口そば コラッセふくしま

会費振込・寄付・募金の口座案内

郵便振替口座：02290-0-97126

加入者名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会

本年度の会費
納入状況をお
知らせします。

—編集後記—

娘と息子の孫二人が3歳になり七五三を迎えました。だんだん記憶力が良くなり、うかつに伊達弁で話せなくなりました。

すべての子ども達の元氣と健やかな成長を祈りたいと思います。



NPO法人ルワンダの教育を考える会



理事長 永遠瑠 マリールイズ

〒960-8055

福島県福島市野田町四丁目 8-20

X:024-533-8289

ホームページ:<http://www.rwanda-npo.org>

e-mail: info@rwanda-npo.org